

第 16 回熊毛保健医療圏地域医療構想調整会議の開催結果について

日 時：令和 8 年 1 月 13 日（火）17 時 30 分～19 時 30 分

場 所：熊毛支庁 第 1 会議室

出席者：11 名（代理出席者 1 名を含む），4 名欠席

<内容>

1 議事

（1）報告事項

ア 令和 6 年度病床機能報告（確定値）について

事務局から、令和 6 年度病床機能報告（確定値）について報告。

イ 令和 6 年度病床機能報告と定量的基準の照合結果について

事務局から、令和 6 年度病床機能報告と定量的基準の照合結果について報告。

（2）議事事項

ア 地域医療構想の評価・総括について

事務局から、地域医療構想の評価・総括について説明。

〔 本医療圏では医療病床数及び医療従事者が少ないことを踏まえ、今後も医療提供体制の構築・維持に向けた協議を行っていく。 〕

<出席委員からの主な意見等>

◆人口推移によると少子多死が始まっており、今後、回復期及び慢性期の病床需要がどの程度見込まれるかは慎重な見極めが必要。さらに、島内でできる限り完結できる医療ケアの仕組みを構築していくことが重要と考える。そのためには人材確保は重要である。

◆事務局案では「回復期、慢性期の患者の約 3 割が本医療圏以外に流出」とあるが、肌感覚では 3 割もの患者が流出しているとは思えない。

→ この数値は平成 28 年度に地域医療構想が策定された際のシミュレーション数値であり、現在の状況と乖離している可能性はある。（事務局）

<協議結果>

本医療圏の評価・総括について、事務局案に委員の意見を反映したものを県に提出することで承認された。

イ 地域医療介護総合確保基金事業補助金（病床機能再編支援事業）の活用希望について

事務局から、事業概要や活用希望内容について説明。

続けて活用医療機関から、申請に至った背景や経緯等を説明。

〔 病床削減の理由としては、医療従事者の不足、特に看護師の不足が大きな要因であるが、看護師がいなければ患者の受入れは難しく、また、現在も病床が全て埋まっているわけではないことから、現状に沿った病床数まで削減することで、今後も持続可能な医療を提供していくことができると考える。 〕

<出席委員からの主な意見等>

- ◆島内から病床が減るとするのは、住民の不安は大きいと感じる。
- ◆島外にいる回復期の患者が島内に帰って来られない現状等があるのか。
→ 回復期及び慢性期の患者が帰島を希望する場合、断ることなく受け入れている。
- ◆現在、民間病院は経営破綻しないようにすることで精一杯の状況である。活用できる制度は活用し、医療環境の持続可能性を優先することは重要である。

<協議結果>

当該医療機関の病床機能再編計画は、本医療圏の地域医療構想に資するものとして承認された。

2 その他

(1) 病床の移管意向のある医療機関について

事務局から概要について説明。

続けて当該医療機関から、病床移管の内容等について説明。

<出席委員からの主な意見等>

- ◆病床移管により病床ゼロの地域が発生することとなり、当該地域住民の不安は大きい。利用者が他の医療機関へ移るにしても、高齢者が増える中で通院等の手段がない方もいる。住民の不安を払拭できるような体制を作っていく事は重要課題である。
- ◆高齢で運転ができない方に関して、病院の送迎バスや島内巡回バス等はないのか。市町で無料または低額の巡回バス等の運行はないのか。
→ 各市町で巡回バスの運行を行っているが、必ずしも希望する時間帯に運行しているとは限らないため、残念ながら不便さは否めない。

(2) 熊毛地域における医療・福祉人材確保について

県及び各市町から人材確保の取組等について説明。

<出席委員からの主な意見等>

- ◆緊急医師確保対策事業の対象期間と金額、熊毛地区への就職実績を教えてください。
→ 県全体での取組となるため、詳細な内容は把握していないが、地域枠医師として熊毛地区に配置された方は、令和7年度は3名となっている。(事務局)
- ◆今働いている人が働きつづけられる仕組み作りが重要であり、また、健康でかつその人らしく過ごせる環境づくりが必要である。薩摩川内市で展開している「かごネット」(薩摩川内市の病院、診療所、歯科、調剤薬局、介護事業所等を相互につなぐ医療介護情報ネットワーク)のような体制の構築を熊毛地区においても是非、目指していただきたい。
- ◆病院においても独自の奨学金を出しているが、就職して何年か経つと、残金を一括返済して都会に転出する人が増えているように感じる。地元の魅力をアピールしてつなぎとめるような工夫がもっと必要。
- ◆熊毛地区では住宅不足が大きな課題となっており、島外から就職希望があっても、住宅を確保できない現状がある。様々な支援をしても住む場所がなければ来ることはできない。病院で職員住宅を作ってもすぐに埋まってしまう状況である。
→ 市営住宅の改修や空き家改修の補助等、各市町で住宅の確保に努めているが、人口減少の傾向等を考慮すると難しい面もある。